

はじめに

看護の現場では、教科書どおりの答えが見つからない場面に、たびたび出会います。患者さんの言葉の背景にある思いをどのように受け止めればよいのか、その人の希望と安全の双方を大切にするにはどうすればよいのか、日々の看護のなかで立ち止まり、迷い、自分のかかわりを振り返ることもあります。その迷いは、目の前の患者さんを大切に思い、よりよい看護を届けたいと願っているからこそ生まれるものです。

精神科医療は、入院中の治療にとどまらず、地域での暮らしや、その人らしい人生を支える方向へと広がっています。身体合併症への対応、家族支援、多職種連携、権利擁護、共同意思決定、虐待防止、行動制限最小化など、看護師が向き合う課題も多様になりました。新たな知識や技術が求められる一方で、患者さんのそばにいて、その人の声に耳を傾けるという看護の大切さは、これからも変わることはありません。

本書『一歩先を行く 精神科ナースの新スタンダード』は、臨床で生まれるさまざまな疑問や迷いに寄り添い、よりよい看護を考えるための手がかりとなることを願って編まれました。統合失調症、気分障害、アディクション、発達障害、認知症などの理解と看護をはじめ、身体合併症、訪問看護、家族支援、危機介入、医療倫理、地域生活支援、キャリア形成まで、これからの精神科看護に大切な知識と技術を100のテーマにまとめています。

新人看護師の皆さんにとっては、わからないことがあったり不安を感じたときに、そっと開くことのできる一冊でありたいと思います。また、経験を重ねてこられた看護師の皆さんには、これまで培ってきた実践を振り返り、その意味や大切にしてきたことを改めて確かめる機会としてお役立ていただければ幸いです。

本書で得た知識や気づきが、目の前の患者さんをより深く理解し、よりよい方向に導くための力となれば幸いです。その積み重ねが、これからの精神科看護を形づくる確かな一歩になると考えています。

2026年8月

草地 仁史